

埼玉県立  
歴史と民俗の博物館



彩の国埼玉県

# THE A MUSEUM

Vol.11-3 第33号 2017.2.17

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore

企画展

## 縄文の空間

じょうもん

くわかん

暮らしと願い



2017

3.18(土) ▶ 5.7(日)

左：注口土器 右：土偶（赤城遺跡 埼玉県教育委員会蔵）

日本列島で1万年も続いた縄文時代は、変化に富んだ姿を遺跡や遺物を通して今に伝えると同時に、謎の多い時代と考えられてきました。しかし近年、発掘調査がもたらす新発見により、縄文時代後・晩期においては、盛り土工事された集落や水辺の活用など、当時を生きた人々の暮らしの様子が明らかにな

りつつあります。

本展では、縄文時代後・晩期の「建物」や「水辺」、「墓地」など様々な生活空間に視点を合わせて、現代の私たちよりもはるかに自然に密接し、適応しながら、祈りと祀りに心を砕いた当時の暮らしの具体像を紹介します。



埼玉県内の地中には膨大な数の遺跡が眠っています。なかでも、今から約4000~2500年前の縄文時代後・晩期の遺跡は、近年の道路建設や宅地開発、河川工事にもなつて発掘調査され、その規模やこれまで見たこともない出土遺物などが話題にあがる可能性があります。関東最大級の環状盛土遺構が確認された加須市長竹遺跡や、低地から大量の木製品が出土したさいたま市大木戸遺跡はその一例です。そしてこれらの遺跡の状況から、当時の人々が居住、水場、祭祀、墓地など集落の構造を意識していることが明らかになってきました。

展覧会で取り上げる遺跡の中には、昭和40年代後半に発掘調査が行われたものも含まれています。これらの遺跡は発掘直後から重要な遺跡として知られてきましたが、近年の類似する遺跡の発見と研究によって、再び注目を集めています。

今回の展覧会では、こうした遺跡にもスポットをあて、縄文時代後・晩期の人々が意識した集落の構成とその具体像について明らかにします。



上空から望む長竹遺跡

## 第1章 埼玉の縄文時代後・晩期

今回の展覧会のテーマは、集落の空間構成ですが、そのキーワードとなるのが「環状盛土遺構」です。「盛土遺構」とは、人々が同じ場所で生活するために盛土工事などの整地を繰り返し行ったことで生ま

れた高まりです。この高まりは窪地などを中心に環状に形成されるものが多く、東日本各地で確認されています。環状盛土遺構の上には住居、墓地、祭祀場、水場などがそれぞれまとまりをもって作られており、これらが一つの集落として成り立っていたと考えられています。このようなことから環状盛土遺構は、縄文時代中期の終わりにみられなくなる大規模な環状集落と同様に、当時の集落の空間を知ることのできる遺構ともいえます。

展示では、埼玉県内で環状盛土遺構として認識されている、さいたま市氷川神社遺跡、同市馬場小室山遺跡、蓮田市雅楽谷遺跡、伊奈町本上遺跡、北本市宮岡氷川神社前遺跡のほか、日高市宿東遺跡をはじめ縄文時代中期の集落についても取り上げます。

## 第2章 積み重ねられた人々の生活

発掘調査と研究によって、集落の様子についても明らかになっています。

建物の中の居住空間を表す平面の形をみると、人々が暮らした建物は時代の流れとともに変化していることがわかります。縄文時代の初めから、竪穴の形は主に楕円形でしたが、後期後葉になると四角い、方形の竪穴建物がみられるようになります。柱などの部材はほとんど出土しないため、残念ながら建物の構造はわかりませんが、新たな技術が取り入



高井東遺跡でみつかった住居跡(埼玉県教育委員会提供)

られたことで、住居内の空間利用に変化が生まれたといわれています。

集落の低地部や湧水地点には、木を組み、杭を打って板を固定した施設が発見されることがあります。これらの施設は木枠を設けて水を溜め、周囲に足場を設置するなどの工夫がみられることから、水資源を安定して確保し、活用するため施設であったと考えられています。また川口市赤山陣屋跡遺跡のように、周囲からトチの種皮がまとまって出土する例もあり、木の実の処理施設としての役割も持っていたと考えられています。

こうした低地や水辺の遺構からは当時の人々が残した木製品が数多く発見されています。これは、木製品が地中深く埋まった後も、水辺の水分の多い土によって真空パック状態になり、分解されずに残っていたからです。桶川市後谷遺跡では、製作途中の石斧の柄、細かな飾りが施された漆塗りの弓、さらには当時の人々が身につけた漆塗りの櫛や耳飾が出土し、重要文化財に指定されています。



漆塗りの櫛（重要文化財 後谷遺跡 桶川市教育委員会蔵）

### 第3章 縄文のまつりと祈り

土偶や土版、石棒といった特殊な道具は、縄文時代後・晩期を象徴する資料です。

発見された集落のなかには、特殊な遺物がまとまって出土する場所がたびたび見られますが、これらは人々が祀りや祈りを行った特別な空間であったと考えられています。

鴻巣市赤城遺跡では、窪地へと下る斜面に大小さまざまな礫が集中する場所がみつけられました。礫に交じって出土した大型の土偶や人面が表現された注口土器、1m近い長さの石棒などは、祭祀における用途と性格が注目されます。なお、石棒は

住居内の炉や壁際などからも出土しており、住居内の一部もしくは住居そのものに祭祀空間が設けられていたともいわれています。



土偶が出土した様子（埼玉県教育委員会提供）



人面が表現された注口土器

(赤城遺跡 埼玉県教育委員会提供 小川忠博氏撮影)

集落内の土壌から小型の注口土器や壺が出土することがあります。白岡市清左衛門遺跡はその好例です。これらの土器は亡くなった人に捧げられたものといわれ、長竹遺跡のように人骨が出土した例もあります。このような土壌がまとまる墓地も集落のなかに設けられますが、建物が立ち並ぶ居住区とは明確に分けられていたことがわかります。

当時の人々の暮らしを支え、彼らの願いが込められた埼玉県内の縄文時代後・晩期の優品たちを、ぜひ会場でご覧ください。

(展示担当 宮原正樹)

# 「交流と変化—東アジアの海外交流—」によせて

みなさんは「博学連携」という言葉をご存知ですか？「博」は博物館の博、「学」は学校の学。その二者が連携して学習の場を設ける、こうした取り組みのことです。当館でも平成 16 年度より博物館と大学の相互協力事業の一環として埼玉大学教養学部との共同企画による連続公開講座「ミュージアムカレッジ」を、県立近代美術館とはほぼ隔年で開催しています。本事業は、単なる学校との連携にとどまらず、地域に根ざした活動の一つとして県民の皆さまの暖かいご支援のもと回数を重ね、博物館での開催は今年度で第 5 回を数えます。

そんな記念すべきミュージアムカレッジ 2016 のテーマはずばり「交流と変化—東アジアの海外交流—」。いつも当館にご来館いただいているみなさんにはあまり接したことの無いテーマかと思えます。また、博物館に普段あまり来ないけれど、テーマに



こんなおしゃれなポスターを作成しました

時代の視点から考えるものでした。

大学からは埼玉大学大学院人文社会学研究科・准教授の中村大介先生、同じく准教授の小野寺史郎先生に登壇いただきました。当館からは加藤かの子学芸主幹、針谷浩一専門員兼学芸員が登壇しました。

今回のミュージアムカレッジは、第 1 回から 4 回

までそれぞれの演題が時代順になっており、全て聴講することで東アジアの交流と変化の大きな流れが概観できる仕組みとなっていました。

第 1 回の中村先生による「海外交流と日本の基層文化形成」では、日本の基層文化（文化の根底にあってそれを支えているもの）は、どのような影響を受けて形成されてきたのかを丁寧に紐解いてくださいました。



第 1 回講座の様子

第 2 回では当館加藤学芸主幹が「<sup>しらぎこと</sup>新羅琴が伝える古代朝鮮半島の興亡」と題して、正倉院北倉に伝存する新羅琴の歴史を辿り、その姿が少しずつ形を変えて現代まで脈々と受け継がれてきた様子を<sup>さま</sup>ご紹介いたしました。

第 3 回の当館針谷専門員兼学芸員の「昭和二年日米人形交流から満州国への人形大使まで」では、戦前の日米文化交流「ドール・メッセンジャープラン」と、それを真似た日本と満州国との人形交流について解説し、人形を介した海外交流をご紹介いたしました。

最終回では埼玉大学の小野寺先生が「日本人が見た中国・中国人が見た日本」という演題で、日本と中国の相互認識を、豊富な資料をもとに詳細に、かつ楽しくご紹介いただきました。現代の日中関係を考える上でもたいへん示唆的な講座でした。

今年もたいへん充実したミュージアムカレッジ、当館での次回開催は平成 30 年度です。また 2 年後にお会いしましょう！

(展示担当 西川真理子)

「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」は、東武アーバンパークライン大宮公園駅を起点とした半径 1km に位置する 9 つの施設のエリア名称で、各施設の個性を生かしながら相互に連携する、魅力的なカルチャー & スポーツエリアとして平成 23 年に発足して以来、さまざまな事業を展開してきました。

今年度も、去る 11 月 20 日（日）に、その中の 3 つの施設を巡るウォーキングツアー「親子で楽しむ大宮公園」を実施しました。

当館を出発した 7 組 23 人の参加者の皆さんが最初に向かったのはサッカー J1 大宮アルディージャのホームである NAKC5 スタジアム大宮です。

当スタジアムは 2002 年の日韓ワールドカップ開催時にブラジル代表の練習会場となっており、当時のブラジル代表がいたずら書きしたサインが残る部屋やアルディージャのロッカールームなど、一般人が入ることのできないバックヤードを施設担当者の説明を聞きながら見学しました。

極めつけは、選手以外は立つことの出来ないピッチへの入場が特別に許可されたことで、参加者の皆さんは大感激の様子でした。

次の見学ポイントは大宮公園の一角にある小動物園です。その名のとおりに規模こそ小さいですが、昭和 28 年開館の歴史を誇ります。

今年度リニューアルされたサル舎を中心に、飼育担当職員の解説を熱心に聴きながらの見学となりました。見学者が中に入れる鳥舎では、国の天然記念物であり、埼玉県のマスコット「コバトン」のモデルとなった「シラコバト」にも会うことができました。

最後に出発点である歴史と民俗の博物館に戻り、「火おこし体験」に挑戦しました。学芸職員の指導のもと、「マイギリ」という発火道具を使って火をおこしたり、火打石ひうちいしの使い方などを親子がいつしょになって体験しました。

「オール電化キッチン」など、現代文明に慣れた子供たちには、当時の人たちの苦勞を、身を以て理解する機会となったようです。

「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」館園施設	
東武鉄道	大宮公園駅
大宮盆栽村	
さいたま市立漫画会館	
さいたま市大宮盆栽美術館	
埼玉県立歴史と民俗の博物館	
大宮公園	
武蔵一宮氷川神社	
NAKC5 スタジアム大宮	
さいたま市立博物館	



ピッチの上でナイスセーブ



コバトンはどこかな？

「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」では、今後ともウォーキングツアーをはじめ、公式ガイドブックの作成、各施設を巡りオリジナルグッズをゲットするスタンプラリーなど、さまざまな連携事業を実施することで、地域の魅力再発見や情報発信力の向上に努めてまいります。

（企画担当 二階堂実）

## 亀ヶ岡式土器と埼玉

埼玉県では、平成 23 年に発生した東日本大震災の被害に対する復興を支援するために、被災県に対して職員を派遣しております。

この中で、学芸員の派遣も行われており私は宮城県北東部の太平洋に面した石巻市で、縄文時代前期から晩期にかけての貝塚調査を支援する機会がありました。

調査した立浜貝塚は、太平洋に半島状に突き出した雄勝地区にあり、浜ごとに点在する貝塚の中でも最も大規模な貝塚です。

調査の目的は、津波の被害を受けた集落を高台に移転するのに先立ち行われたもので、雄勝湾を南に望む標高 20 メートルほどの高台が対象地となりました。

遺跡は浜に沿って幅約 200m、丘陵部への奥行きが約 100m の規模があります。調査地点が、貝塚の中心から離れていたため貝層は検出されませんでした。縄文時代前期（約 6000 年前）から晩期（約 3000 年前）にかけて厚く堆積した包含層と呼ばれる土層が検出され、多量の土器や石器が出土しました。

縄文時代晩期の東北地方は、遮光器土偶に代表される亀ヶ岡文化（亀ヶ岡式土器）が広く分布していました。東北地方の縄文時代晩期の土器を代表する亀ヶ岡式土器の研究は古く、岩手県大船渡市大洞貝塚出土の土器を細かく時間軸として分類した山内清男博士らは、大洞式土器として縄文時代晩期の編年（土器の年表）を作りました。これにより、大洞式土器は亀ヶ岡文化の標式土器とされています。

亀ヶ岡文化は東北のみならず、西日本にも影響を与えました。また、関東地方にもその文様は強い影響を与え、特に埼玉県川口市安行にある縄文時代晩期の猿貝貝塚出土土器などに大きな影響がみられ、安行式土器と呼ば



壺（大洞式）（写真：石巻市教育委員会提供）

れ関東地方の縄文時代晩期を代表する標識土器となっています。

さて立浜貝塚では、土器とともに石斧や石鏃（矢じり）と共に石棒（子孫の繁栄を願う祭りに使ったものか）と呼ばれる石器も多数出土しています。このほかに炉の跡も見つかりましたが、住居跡は検出されませんでした。



配石（写真：石巻市教育委員会提供）

調査も終盤になると、包含層の下から配石遺構（石組み）が 4 カ所見つけられました。配石は一抱えもある石が配置されたもので、強い火を受けた痕跡があります。配石遺構の下を調査したところ、浅い土壇（穴）が見つけられました。出土遺物はありませんでした。他の遺跡の例を参考に考えれば、墓や祀りまたは煮炊きを行った場所であった可能性が考えられます。

（主席学芸主幹 西口正純）

# 民俗調査 と 博物館

学芸員は普段何をしているのか？

一般的なイメージとしては、展覧会の準備をしたり、資料の調査をしたり、あるいは講座やイベントで一般のお客様と触れ合ったり、といったところでしょうか。これらの仕事は、学芸員の調査研究の成果に基づいて行われるものです。当館の場合、考古・歴史・美術・民俗に大きく分野が分かれております。ここでは民俗分野の学芸員が担当している仕事の一部をご紹介します。

ただいま埼玉県では「無形民俗文化財調査事業」を進めており、当館の民俗分野学芸員は、博物館を飛び出して、「巡り・廻りの民俗行事」の調査を行っています。「巡り・廻りの民俗行事」とは、家から家へ、あるいは地域から地域へ一定の周期で巡回する様々な祭りや行事を指しています。今年度は、「廻り地蔵」の習俗がある今井地区（熊谷市）・本川俣地区（羽生市）、「回り念仏」を行う風布地区（長瀨町）で調査し、今井地区と本川俣地区では映像記録の撮影も行いました。

今回の調査の目的は、行事の記録を作成することです。関係者への聞き取りのほか、行事に終日張り付き、その一切を細かく記録しなければなりません。これがなかなか体力勝負なのです。炎天下の熊谷で行事の開始を待ち、羽生では局地的な暴風雨に遭遇し、風布ではうっかり置いてきぼりにされないよう、地元の方を必



行事の邪魔にならないよう調査する学芸員（右端）

死に追いかけてきました。いろいろな意味で大変な調査でしたが、地元の方のご協力もあり、無事に終えることができました。

調査から帰ると、すぐに資料整理に取り掛かります。資料は、聞き取りして得たデータや、映像・音声などですが、文書や写真などをご提供いただく場合もあります。今回も、関係者より廻り地蔵の胎内文書（写し）をご提供いただきましたが、読み慣れていないので分からない字がたくさん……。そこで、歴史系の学芸員に相談です。異なる分野の者が一緒に仕事をしている、博物館の良いところですね。考古分野や美術分野の学芸員に協力してもらうこともあります。



古文書解読のレクチャー中

調査研究は、博物館にとって、展示や資料保存、教育普及などの業務を支える土台の部分です。地味な調査を積み重ねていくことで、公開や活用につなげていくことができます。

今回は民俗分野の学芸員が担当する仕事として、民俗調査をご紹介しましたが、県民の皆さまのご協力なくしては為しえません。埼玉の歴史や文化を見直し、守っていくために、これからもどうぞ調査へのご理解ご協力、よろしくお願いいたします！

（展示担当 戸邊優美）



## 歴史と民俗の博物館イベント情報(3月～6月)



埼玉県のマスコット  
コマン

■企画展 「縄文の空間－暮らしと願い－」 3月18日(土)～5月7日(日)まで開催します。

### 3月

- 4日(土) 十二単・小袿と男子装束の着装体験裏  
博物館裏方探検隊
- 5日(日) 型付け藍染め
- 11日(土) 火おこし体験教室、博物館裏方探検隊
- 18日(土) 企画展「縄文の空間」オープン(～5/7)  
博物館春まつり ポン菓子作り隊  
企画展展示解説、博物館裏方探検隊
- 25日(土) 企画展展示解説、博物館裏方探検隊

### 4月

- 1日(土) 博物館裏方探検隊
- 8日(土) 企画展展示解説、博物館裏方探検隊
- 15日(土) 企画展記念講演会、博物館裏方探検隊  
十二単・小袿の着装体験
- 22日(土) 企画展展示解説、博物館裏方探検隊
- 25日(火) 埼玉の人物「吉田清英」オープン  
特集展示「お殿様のくらし」オープン
- 29日(土祝) 歴史民俗講座、博物館裏方探検隊

### 5月

- 3日(水祝) GW特別 博物館裏方探検隊
- 4日(木祝) GW特別 博物館裏方探検隊
- 5日(金祝) GW特別 博物館裏方探検隊

※イベントは事情により変更する場合があります。

- 5日(金祝) 博物館子供まつり  
射的遊び・兜をかぶろう  
弥生時代復元住居見学会
- 6日(土) 博物館裏方探検隊
- 7日(日) 企画展展示解説
- 13日(土) 博物館裏方探検隊
- 16日(火) 美術展示「いきもの凶鑑」オープン
- 17日(水) 藍の絞り染めエプロン作り
- 20日(土) 十二単・小袿と男子装束の着装体験  
博物館裏方探検隊
- 27日(土) 博物館裏方探検隊

### 6月

- 3日(土) 民俗芸能講習会、博物館裏方探検隊
- 10日(土) 民俗芸能講習会、博物館裏方探検隊
- 13日(火)～18日(日) 館内消毒・清掃(臨時休館日)
- 20日(火) 美術展示「仏の姿」オープン  
民俗展示「藍」オープン  
特集展示「教科書に見る近代」オープン
- 24日(土) お囃子体験教室「さんてこ囃子」  
博物館裏方探検隊
- 25日(日) 民俗芸能講習会
- 30日(金) 藍染めストール作り

5月1日(月)は開館します。

博物館裏方探検隊は原則毎週土曜日に実施します。

### 今後の展覧会



交通機関  
東武アーバンパークライン(野田線)  
大宮公園駅下車徒歩5分

### 埼玉県立 歴史と民俗の博物館

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore (編集発行)

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4丁目219番地  
TEL. 048-641-0890 (管理)  
048-645-8171 (学芸)  
FAX. 048-640-1964  
<http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/>



埼玉県立歴史と民俗の博物館だより  
Vol.11-3 (通巻)第33号  
2017年2月17日発行